

補論 総合生活満足度と分野別満足度との関係

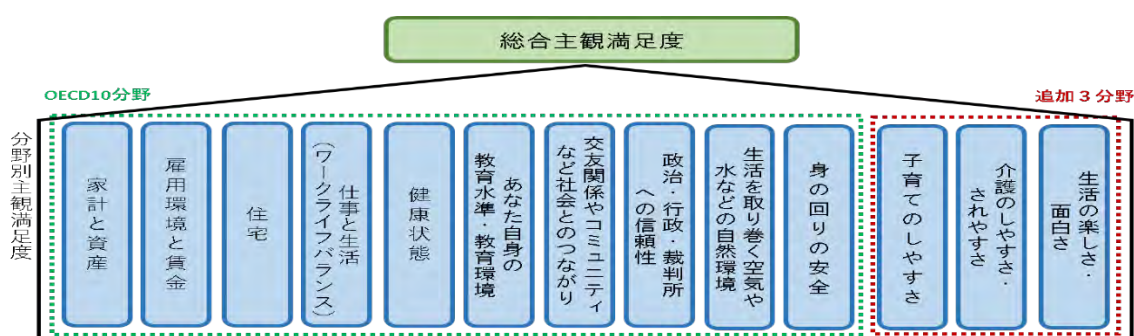
1. 生活満足度はどのような要因に影響されるのであろうか

人々の生活満足度はどのような要因に影響されるのであろうか。あるいはどのような体系を想定して分析していくのがよいのであろうか。内閣府では、2018 年9月以降、専門家による研究会を開催し、検討を進めてきた。2019 年、2020 年の実施した Web による「満足度・生活の質に関する調査」では、人々の総合的な生活満足度を聞くと同時にそれが、こういった分野の満足度の影響を強く受けているかを調べるために、生活に関係する分野別の主観的満足度についても調査している²⁹。

総合主観満足度³⁰を構成する分野については、OECD による先行事例の分類³¹をベースとして、まず①家計と資産、②雇用環境と賃金、③住宅、④仕事と生活（ワークライフバランス）、⑤健康状態、⑥教育水準・教育環境、⑦交友関係やコミュニティなど社会とのつながり、⑧政治、行政、裁判所への信頼性、⑨生活を取り巻く空気や水などの自然環境、⑩身の回りの安全の 10 分野を設定した。例えば、「家計と資産」については、自らの所得や金融資産により、物やサービスを購入するなどの経済活動を行うことで生活満足度を高めることが可能であり、主要な分野の一つであると考えられる。

これらに加えて、ここでは、現在の日本の経済社会において、重要な課題である少子化・高齢化と密接に関係する、⑪子育てのしやすさ、⑫介護のしやすさ・されやすさ、そして、より前向きな要因として、⑬生活の楽しさ・面白さ、の3つの分野を追加した。

図表 1 体系図（総合主観満足度と分野別主観満足度）



²⁹ 総合主観満足度（生活全般の満足度をここでは総合主観満足度と呼ぶ）と分野別主観満足度については、現在の生活にどの程度満足しているかについて、0 点から 10 点の 11 段階で満足の度合を質問しており、「全く満足していない」を 0 点、「非常に満足している」を 10 点として調査している。分野別主観満足度については、生活に関係するさまざまな分野における満足の度合いについて、同じ尺度（11 段階）で調査している。

³⁰ 生活全般の満足度をここでは総合主観満足度と呼ぶ。

³¹ OECD の「より良い暮らし指標(Better Life Index)」では、11 の分野（①所得と資産、②仕事と報酬、③住居、④健康状態、⑤ワーク・ライフ・バランス、⑥教育と技能、⑦社会とのつながり、⑧市民参加とガバナンス、⑨環境の質、⑩生活の安全、⑪主観的幸福）を設定し、分野ごとに 1～4 つの指標を用いて説明している。

図表2 分野別主観満足度を設定した理由

分野別主観満足度	設定した理由
① 家計と資産	所得は、人が自らのニーズを満たすこと、また、その他の自分の人生にとって重要と考える多くの目標の追求を可能にし、資産は、長期にわたってこうした選択を持続することを可能にする。
② 雇用環境と賃金	仕事に就き、そこから報酬を得ることは、個人の幸福にとって不可欠である。良い仕事は、自由になる金銭を増やすだけでなく、願望を実現させたり、自尊心を培ったりする機会をもたらす。
③ 住宅	住居は、雨風をしのぐ場所など基本的なニーズを満たす上でも、個人的な安心感やプライバシーを得るためにも欠かすことができない。さらに住居費は家計資産の主たる要素でもある。
④ 仕事と生活 (ワークライフバランス)	仕事、家族との時間、そして個人としての時間を両立させること、「ワーク・ライフ・バランス」を実現することは、世帯の構成員の誰にとっても幸福の要件である。
⑤ 健康状態	長寿、疾病・創傷なしに生きられることは、人の暮らしにおいて根源的に重要である。また、健康状態が良ければ、労働市場に参加したり、良好な社会関係を築いたりする機会が増える。
⑥ 教育水準・教育環境	教育は、学習という基本的ニーズに応えるとともに、高い学歴は仕事の報酬や雇用の可能性を高める。また、経済成長や社会的結束の強化、犯罪の減少など社会にも様々な利益をもたらす。
⑦ 交友関係やコミュニティなど 社会とのつながり	社会とのつながりは、人間本来の喜びに加えて、個人や社会の幸福に好ましい波及効果ももたらす。社会全体でみれば、他者への信頼や助け合いの社会規範といった共通の価値観を生み出す。
⑧ 政治・行政・裁判所への 信頼性	政治・行政・裁判所への信頼性は、帰属する社会の方向性の決定や運営への参加・関与の機会となり、民主主義を適切に機能させる。
⑨ 生活環境を取り巻く空気や水 などの自然環境	汚染物質や有害物質、騒音が人々の健康に及ぼす影響は小さくない。また、多くの人は居住地の美しさや健全さに価値を見出すとともに、地球の環境劣化や天然資源の枯渇を懸念している。
⑩ 身の回りの安全	人の生活に対する脅威には、戦争、テロ行為、環境や自然を起因とするリスク、産業災害、労働災害など、様々なものがあげられるが、そのなかでも最も一般的な脅威の一つが犯罪である。
⑪ 子育てのしやすさ	母親の孤立など深刻な問題が発生しないよう、子育てがしやすい社会を構築することは、親の幸福感を高めるとともに、社会全体の繁栄をもたらすものである。
⑫ 介護のしやすさ・されやすさ	要介護者等からみた主な介護者の属性は同居者である。したがって、介護がしやすいこと、また、されやすいことは、世帯構成員すべての生活満足度に大きな影響を与えるものである。
⑬ 生活の楽しさ・面白さ	生活の楽しさ・面白さを追求することは、人間の根源的な欲求であり、生活の満足度に大きな影響を与えるとともに、相互に影響し合うものである。

なお、総合主観満足度は、家族などの個人的な諸要因の影響も受けられていると考えられる。今回の取組では、政策運営との関係が深いと思われる分野を採り上げたが、それらの分野についての主観的満足度で、総合主観満足度の6割強を説明できる(図表3を参照)との結果となっている。

次項以降では、2019 年調査(回答者数 10293)と 2020 年調査(回答者数 5281)を合計した「満足度・生活の質に関する調査」の集計結果(回答者数 15574)について、まずは、回答者全体での総合主観満足度、各分野別主観満足度の平均をみた後、回答者の性別・年齢別等でそれぞれの満足度がどのように異なるのかを概観する。

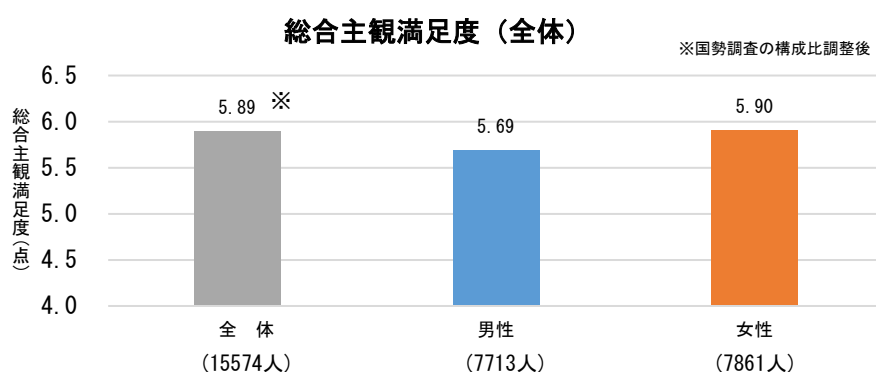
その後に、総合主観満足度に対し、どの分野の満足度が大きな影響を与えているのかを検証していきたい。

具体的には、①総合満足度を被説明変数とし、13 分野の満足度を説明変数とする重回帰分析、②総合満足度と生活の楽しさ・面白さが相互に影響し合うと仮定し、生活の楽しさ・面白さを除く 12 分野からは、(a)総合満足度に直接影響を与える経路、(b)生活の楽しさ・面白さを介して影響を与える経路、(c)両方に影響を与える経路、があるのではないか、との仮説を検証したパス解析により検証する。

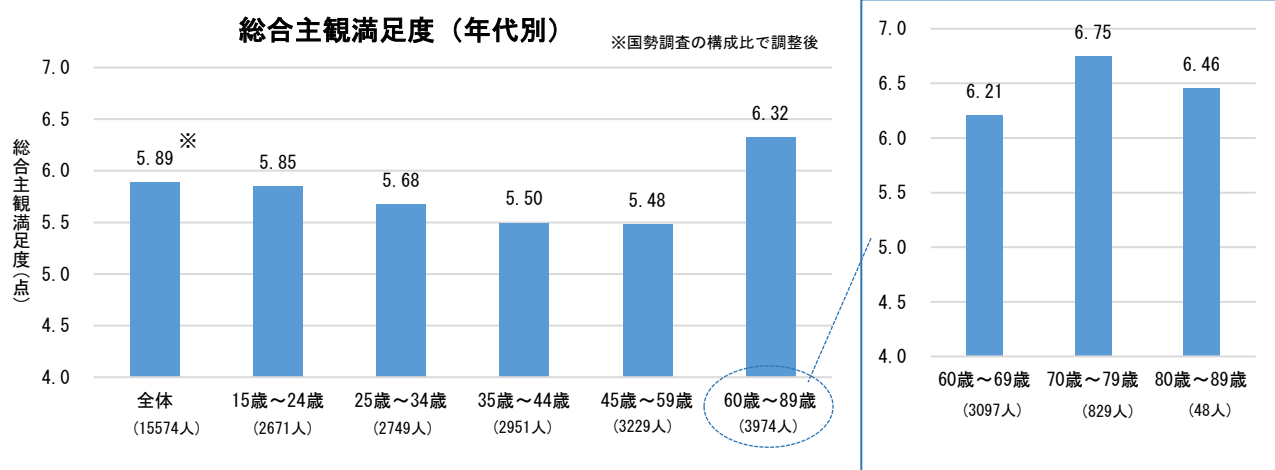
2. 「満足度・生活の質に関する調査」の結果

(1) 総合主観満足度の平均点

2019 年調査(回答者数 10293)と 2020 年調査(回答者数 5281)を合計した「満足度・生活の質に関する調査」の集計結果(回答者数 15574)では、総合主観満足度³²の全国平均は 5.89 点³³となった。直近に公表された国際連合の「World Happiness Report 2020」では、日本の幸福度は 5.871 点とあり、数値としては極めて近い結果となった³⁴。



(出典) 内閣府 満足度・生活の質に関する調査 (2019 年調査・2020 年調査)



(出典) 内閣府 満足度・生活の質に関する調査 (2019 年調査・2020 年調査)

³² 「満足度・生活の質に関する調査」では、「現在の生活にどの程度満足しているか」について、0 点から 10 点の 11 段階で満足の度合を質問し、「全く満足していない」を 0 点、「非常に満足している」を 10 点として調査を実施。

³³ 総合主観満足度の全国平均は、「満足度・生活の質に関する調査」(SRC)の単純集計結果ではなく、平成 27 年国勢調査の構成比(性別・年齢・地域)で調整(ウェイトバック集計)を行っている。

³⁴ 「World Happiness Report 2020」では、1 位フィンランド(7.809 点)、2 位デンマーク(7.646 点)、5 位ノルウェー(7.488 点)、13 位英国(7.165 点)、17 位ドイツ(7.076 点)、18 位米国(6.940 点)、23 位フランス(6.664 点)、30 位イタリア(6.387 点)、61 位韓国(5.872 点)、62 位日本(5.871 点)、94 位中国(5.124 点)。

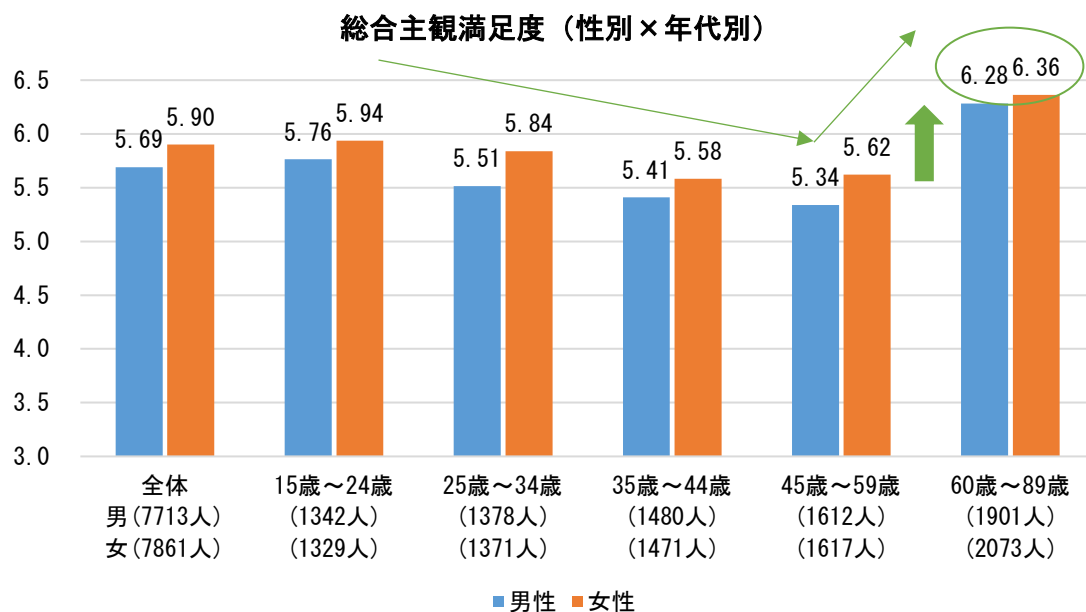
(2) 性別・年齢別・地域別で見た総合主観満足度の特徴

今回の調査から、属性別にその特徴を見ると、①女性の方が満足度は高いこと、②年齢別では「谷型」となること、③地域別にみると、北海道・東北がやや低い、大きな差はない、都市規模別にみても、規模による差は大きくないということが判明した。詳細は以下のとおり。

(a)性別×年齢

性別で見ると、女性の方が男性よりも総合主観満足度が高いことが分かる。

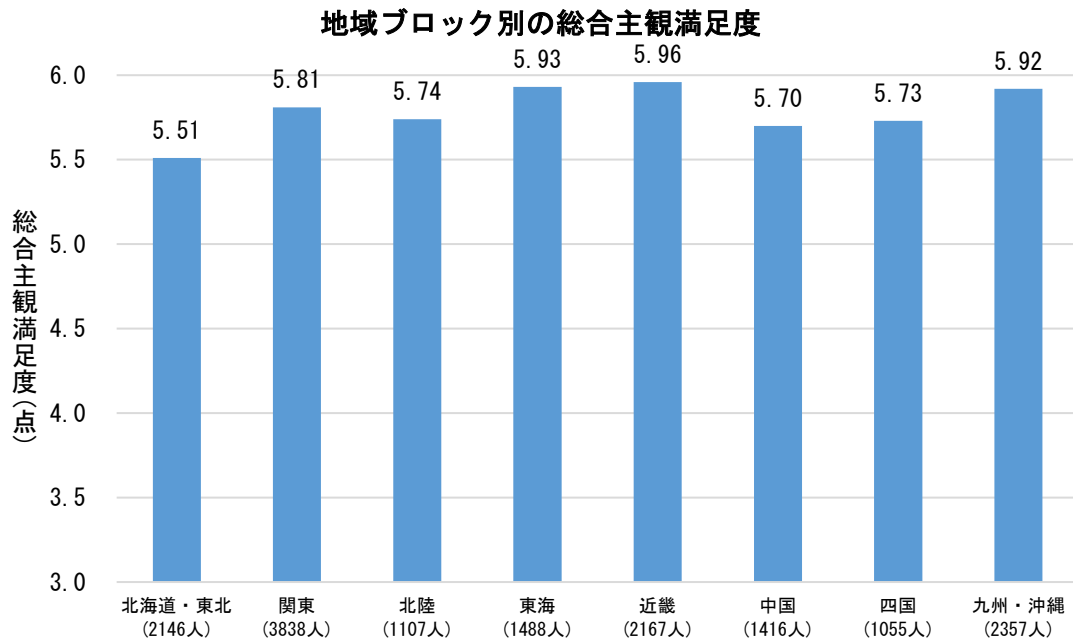
「45 歳～59 歳」までは男女ともに概ね年齢とともに、総合主観満足度が低下していくが、「60 歳以上」になると急激に上昇する。



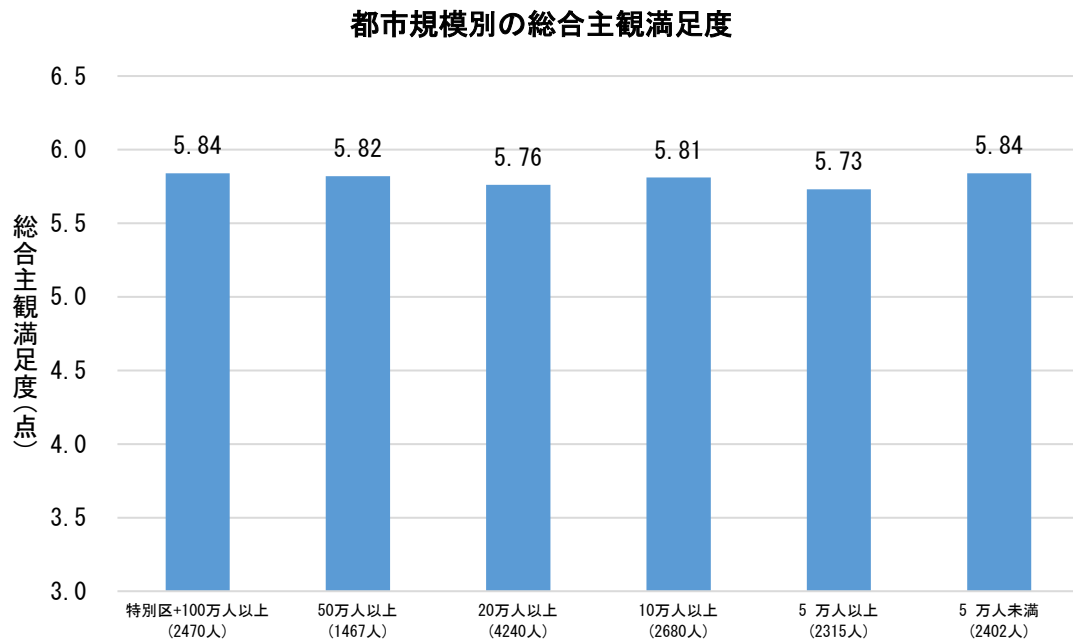
（出典）内閣府 満足度・生活の質に関する調査（2019 年調査・2020 年調査）

(b) 地域・都市規模

地域別では、東海地方・近畿地方が比較的高かったものの、大きな特徴は見出せなかった。都市規模別では大きな差異はない。



(出典) 内閣府 満足度・生活の質に関する調査 (2019 年調査・2020 年調査)

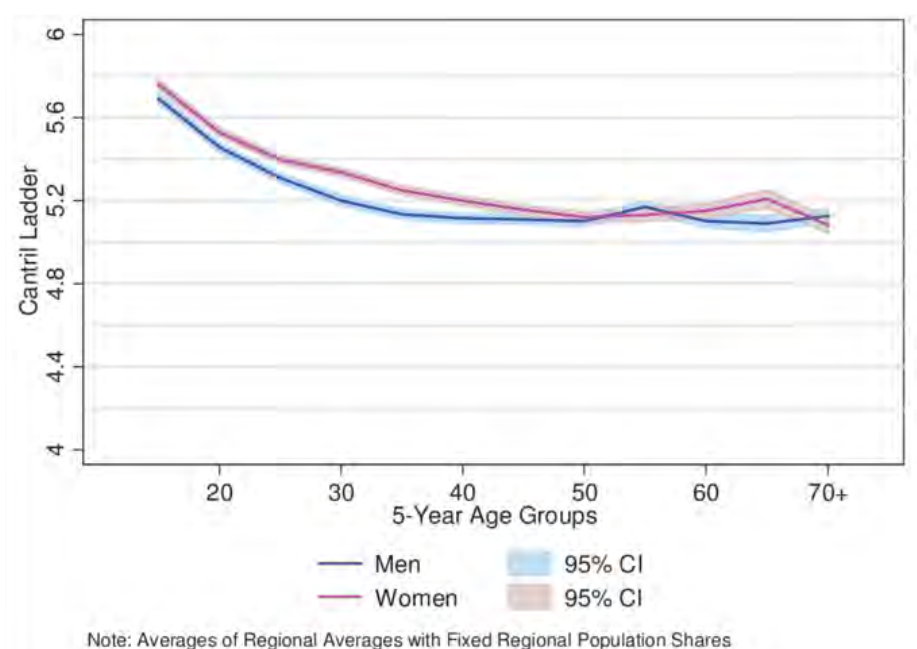


(出典) 内閣府 満足度・生活の質に関する調査 (2019 年調査・2020 年調査)

＜コラム＞ 国際的にみた性別・年齢による主観的幸福度の違い

World Happiness Report 2015 ではギャラップ世界世論調査 (GWP) の 10 年間 (2005 ～2014 年) のデータを用いて、全世界及び9つの地域別にみた男女間、年齢間の幸福度の差を比較している。下図をみると、世界平均では女性の方が男性よりも主観的な幸福度が高く、20 歳前後で最も高くなっており、すべての年齢層を合わせた場合、女性の方が 0～10 段階で平均 0.09 ポイント高くなっている。

Figure3.1: World: Cantril Ladder by Gender and 5-Year Age Groups



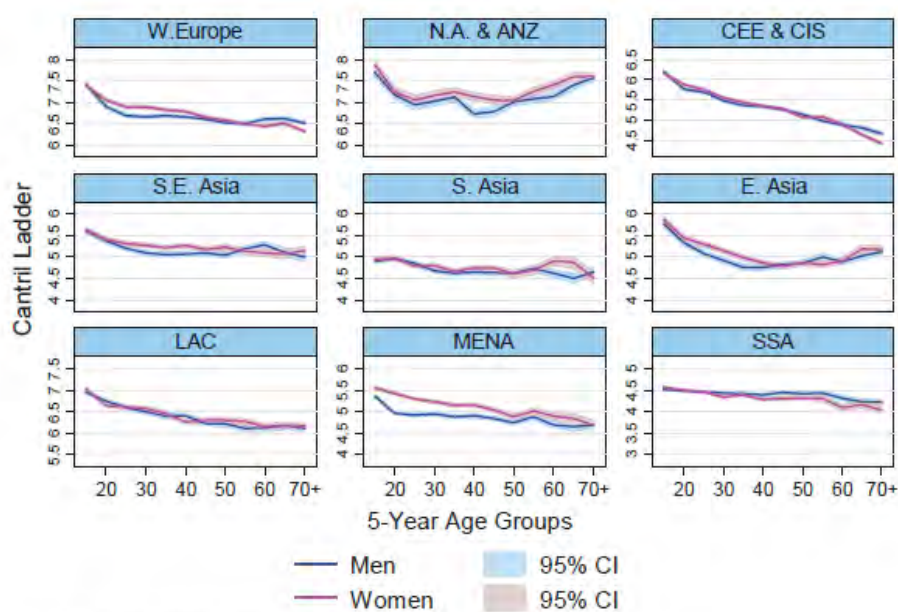
(1) 地域間で大きく異なる主観的幸福度の男女差

世界8地域のうち、北米・豪NZ (+0.17 ポイント)、東南アジア (+0.09)、南アジア (+0.05)、東アジア (+0.09)、中東・北アフリカ (+0.28) の5地域では、女性の方が男性よりも主観的幸福度が高く、わずかではあるが統計的に有意な差がある。一方、中東欧ロシア (-0.07) とサハラ以南のアフリカ (-0.03) の2地域では、女性の主観的幸福度は男性よりも有意に低い。西ヨーロッパとラテンアメリカでは、性別の差は非常に小さく、取るに足らないものである。

(2) 地域間でさらに大きく異なる主観的幸福度の年齢層間の差

主観的幸福度の年齢層間の差はより顕著である。以前は、多くの国でU字型のパターンを示しているが、現在は東アジアと南アジアの2つの地域のみである。また、西ヨーロッパでは男性、南アジアでは女性に有意なU字型が見られる。U字型の左側は、ほぼすべての国と地域で、10代後半から40歳代にかけて顕著に低下している。

Figure 3.2: Regions: Cantril Ladder by Gender and 5-Year Age Groups



Note: Weighted by Countries' Total Population

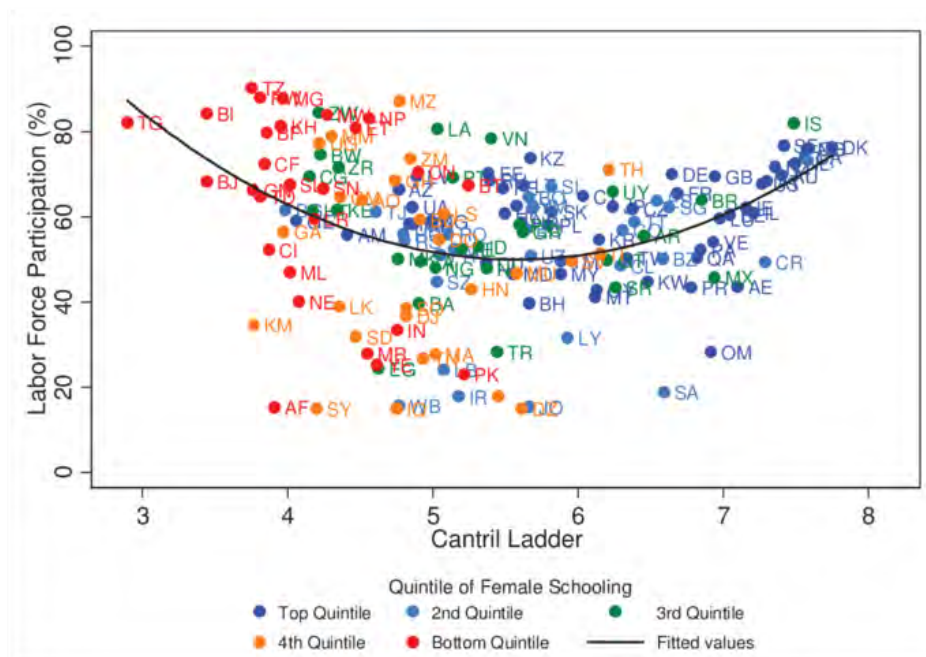
(注) W. Europe: 西ヨーロッパ、N. A. & ANZ: 北米・豪NZ、CEE&CIS: 中東欧ロシア、S. E. Asia: 東南アジア、S. Asia: 南アジア、E. Asia: 東アジア、LAC: ラテンアメリカ、MENA: 中東・北アフリカ、SSA: サハラ以南アフリカ

(3) 女性の主観的幸福度と労働参加率

男女間の労働参加率の差は世界的に見ても大きい。世界平均では、労働市場に参加している割合は、女性は55%、男性は82%である。

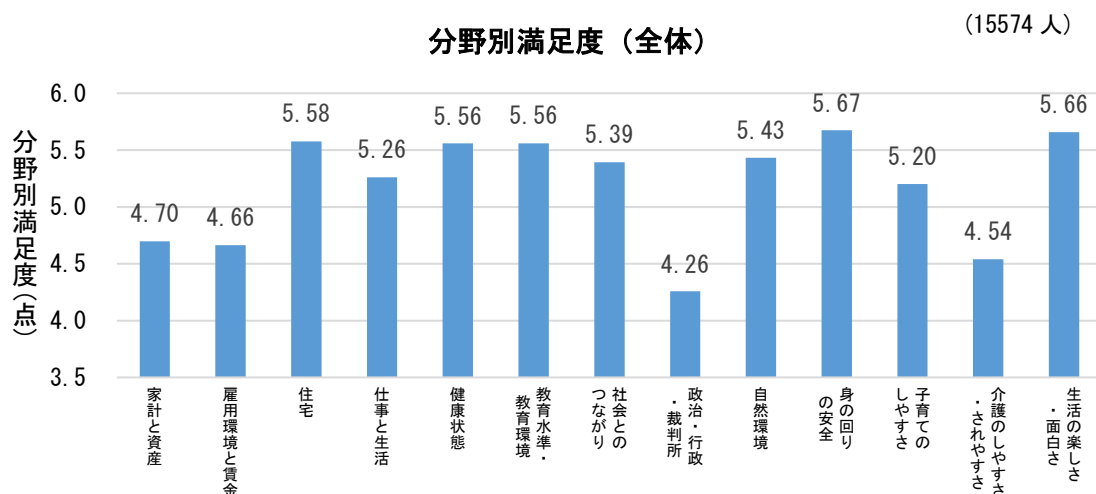
下図は、国レベルの女性の労働参加率と主観的幸福度の平均値を比較した散布図である。ギャラップ調査から計算された平均教育レベルは、明るい赤(教育水準が低い)から濃い青(教育水準が高い)の五分位で示している。U字型のパターンが見られ、低い教育水準の女性は、労働参加率が高いほど主観的幸福度が低いのにに対し、高い教育水準の女性は、労働参加率が高いほど主観的幸福度が高くなっている。

Figure 3.11: Female Happiness and Labor Force Participation by Country



(3) 分野別満足度の特徴(全体、性別、年齢別、地域別)

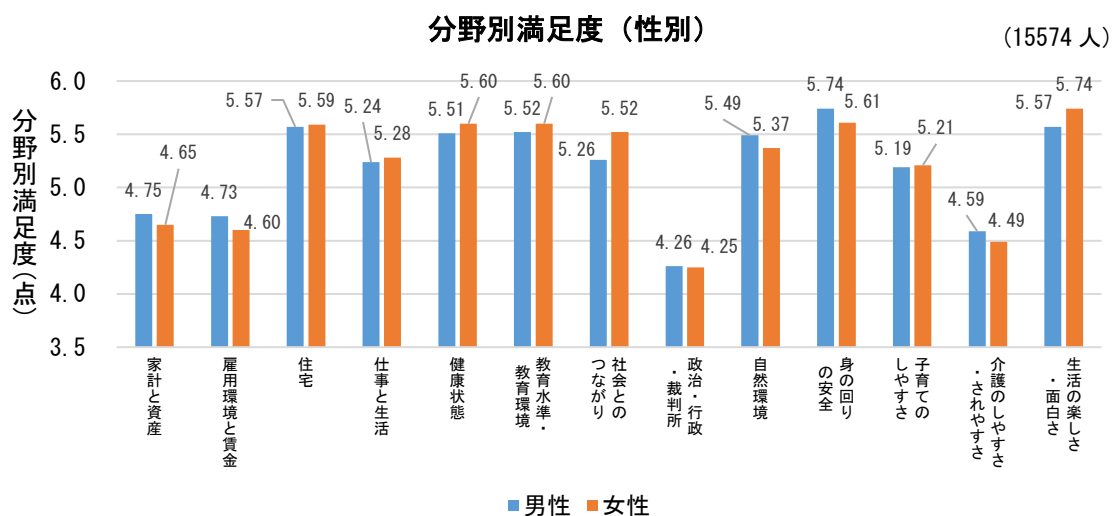
次に、分野別満足度をみていくと、分野により満足度の点数が大きく異なることがみてとれる。満足度が高い分野は、「身の回りの安全」、「生活の楽しさ・面白さ」、「住宅」、「健康状態」、「教育水準・教育環境」、一方、満足度が低い分野は、「政治・行政・裁判所」、「介護のしやすさ・されやすさ」、「雇用環境と賃金」、「家計や資産」となっている。



(出典) 内閣府 満足度・生活の質に関する調査(2019年調査・2020年調査)

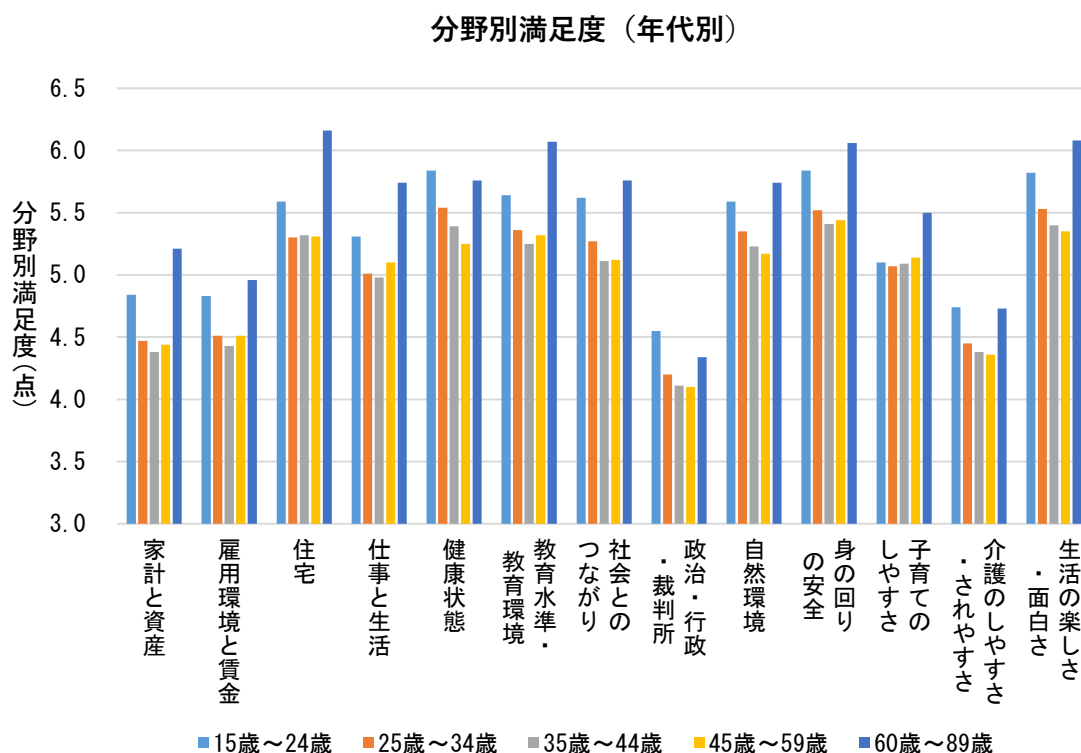
(a)性別×年齢

男女別にみると、13分野のうち、男性の満足度が高い分野が6つ、女性の満足度が高い分野は7つとなっている。特に、男性は雇用環境と賃金、身の回りの安全、女性は社会とのつながり、生活の楽しさ・面白さが相対的に高いことがみてとれる。



(出典) 内閣府 満足度・生活の質に関する調査(2019年調査・2020年調査)

年齢別に分野別満足度をみると、ほぼすべての分野がU字型となっているが、子育てのしやすさは、若年層の満足度が低くなっており、U字型が崩れている。また、35歳～44歳の年代が、7分野において最も満足度が低くなっている（「家計と資産」、「雇用環境と賃金」、「仕事と生活」、「健康状態」、「教育水準・教育環境」、「社会とのつながり」、「身の回りの安全」）。



（出典）内閣府 満足度・生活の質に関する調査（2019年調査・2020年調査）

(b) 地域・都市規模

次に、地域別に分野別満足度をみていくと、分野別満足度の水準自体は地域間で大きな相違はないものの、地域ごとに分野別満足度の順位付けをみると、関東、東海地方は、「生活の楽しさ・面白さ」が1位であるのに対し、北海道・東北地方では3位となっている。一方、北海道・東北、北陸、中国、四国、九州・沖縄地方では、「身の回りの安全」が1位となっているが、東海、近畿では3位である。また、地域の特徴としては、北海道・東北地方では自然環境が2位、東海地方では教育水準・教育環境が2位、近畿地方では住宅が1位、といったことがあげられる。

	北海道 ・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄
1 位	身の回りの 安全	生活の楽し さ・面白さ	身の回りの 安全	生活の楽し さ・面白さ	住宅	身の回りの 安全	身の回りの 安全	身の回りの 安全
2 位	自然環境	身の回りの 安全	生活の楽し さ・面白さ	教育水準・ 教育環境	生活の楽し さ・面白さ	生活の楽し さ・面白さ	健康状態	生活の楽し さ・面白さ
3 位	生活の楽し さ・面白さ	住宅	健康状態	身の回りの 安全	身の回りの 安全	教育水準・ 教育環境	生活の楽し さ・面白さ	健康状態
4 位	教育水準・ 教育環境	教育水準・ 教育環境	自然環境	住宅	教育水準・ 教育環境	健康状態	教育水準・ 教育環境	教育水準・ 教育環境
5 位	住宅	健康状態	住宅	健康状態	健康状態	住宅	住宅	住宅

※地域別の表

最後に、人口規模別に市町村を分類してみると、ここでも、地域別同様、分野別満足度の水準自体に大きな差はないが、人口規模ごとに分野別満足度の順位付けをみると、50 万人以上の市町村では、「生活の楽しさ・面白さ」が1位であるのに対し、50 万人未満の市町村では、「身の回りの安全」が1位となっている。また、100 万人以上の都市では、「身の回りの安全」は4位と低くなっている。また、5万人未満の市町村では、「自然環境」が3位、100 万人以上の市町村では、「教育水準・教育環境」が2位となっている。

	100 万人以上	50～100 万人 未満	20～50 万人 未満	10～20 万人 未満	5～10 万人未満	5 万人未満
1 位	生活の楽しさ・ 面白さ	生活の楽しさ・ 面白さ	身の回りの安全	身の回りの安全	身の回りの安全	身の回りの安全
2 位	教育水準・教育 環境	身の回りの安全	生活の楽しさ・ 面白さ	生活の楽しさ・ 面白さ	生活の楽しさ・ 面白さ	生活の楽しさ・ 面白さ
3 位	住宅	住宅	教育水準・教育 環境	住宅	健康状態	自然環境
4 位	身の回りの安全	健康状態	住宅	教育水準・教育 環境	住宅	住宅
5 位	健康状態	教育水準・教育 環境	健康状態	健康状態	教育水準・教育 環境	健康状態

※ただし、5 万人未満都市の 4 位・5 位は同数値、順不同